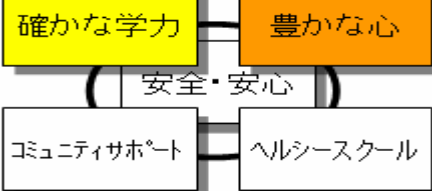


# 教育いちかわ

## 市川の学校教育3カ年計画

1. 確かな学力を育みます
2. 豊かな心を育みます
3. 健やかな体を育みます
4. 信頼される開かれた学校をつくります

発行 市川市教育委員会  
〒272-8501 市川市八幡1-1-1  
TEL 334-1111  
企画編集 市川市教育センター  
〒272-0015 市川市鬼高1-1-4  
TEL 320-3335  
FAX 320-3352



## 美しい日本語でひびき合う心

言葉は使う人の心を映すと言われます。自分が感動した言葉、相手を気遣う言葉は、言葉の受け手の気持ちを温かくします。美しい言葉は豊かな人間関係をつくります。教育委員会では、今年度から、子どもの感性を育み、情操を高め、豊かな心を育てる「美しい日本語の使い手の育成」に取り組み始めています。

### 美しい日本語とは

教育委員会では、「美しい日本語」を、相手や場面に応じた、心のこもった言葉 長い日本の歴史の中で生まれ受け継がれてきた言葉そのものとして美しい言葉、ととらえました。また、それらの言葉を使うことでお互いの心が通じ合うという意味をこめて、「美しい日本語でひびき合う心」をキャッチフレーズとして取り組んでいます。

具体的な推進の手だてとして、次の3点を考えています。1つ目は、読書活動の推進です。市川市では長年にわたって学校と家庭・地域が一体となった読書活動を進めてきました。この特長をいかして、子どもたちが読書に親しみ、美しく豊かな言葉に出会う機会をつくっていきたくと考えています。

2つ目は子どもを取り巻く大人の言葉を見直すということです。教師の言葉は子どもにとっての大きな言語環境です。まず、教師が自分の言葉を見直し、子どもとの日常生活全体を通して、美しく正しい言葉遣いに努力してほしいと思います。また、美しい言葉は学校だけで育成できるものではありません。家庭との連携を図るため、家族の間でのあいさつがきちんとできているか、お父さんやお母さんの言葉遣いはどうかなど各家庭でも見直していただき、子どもの言語環境を整えるためご協力いただきたいと思います。

3つ目は、啓発活動として「美しい日本語」をテーマにした研修会や講演会を実施していきます。



### 工藤直子さんの講演会

「美しい日本語の使い手の育成」の啓発活動として、去る7月31日に市川市文化会館大ホールで、詩人で児童文学作家の工藤直子さんを招いた講演会が行われました。

当日は工藤直子さんのお話の前に、市内小中学生による工藤直子さんの詩の朗読や合唱が発表されました。大野小学校合唱部の皆さんによる「まいにちおはつ」の合唱。この曲は今年度のNHK全国音楽コンクール小学校の部の課題曲として工藤さんが作詞したものです。その後、大和田小学校・平田小学校・第八中学校の皆さんが、工藤さんの詩「じゃんけんぼん」「考えごと」「おわりのない海」等、17編を朗読しました。

また、各学校の発表の後には工藤さんが一つ一つ温かい言葉で感想を述べてくださいました。どの子どもたちも緊張しながらも、詩の特徴をよくとらえて、堂々と発表していました。会場には1000人を超える参加者があり、児童生徒や教職員、保護者の皆さんがともに工藤直子さんのお話や詩の朗読に浸り、美しい日本語の響きを感じ取る機会となりました。



講演会に参加した方の感想をご紹介します。

講演ではなく親しみをこめた語りかけのように感じました。言葉と戯れているような工藤さんのように、日々心に余裕をもっているのを見てみたいと思いました。(市民)  
娘が読み手として参加させていただきました。何か感じ取ってくれると信じています。仕事を早退してきた甲斐がありました。子どもの詩、感性・・・涙が止まりませんでした。(市民)  
おはつにお目にかかり、なんと素敵な方でしょう。工藤直子さんのお人柄が素敵です。声・表情・お話の内容、素晴らしいです。「私の作品は好きなように使ってください」といわれた言葉がうれしかったです。ますます工藤さんが好きになりました。言葉の持つ楽しさ、やさしさ、和み、じんとききました。(小学校教員)  
合唱も朗読も日本語が正しく美しく伝わってきました。自由の前に正しく話すことを指導することが大事なのですね。先生のお話の中では作品と出会うということは自分のものになること、書き手と読み手は五分五分。楽しかったです。授業に生かしていきます。(中学校教員)  
[指導課・教育センター]



## 広がる少人数での学習

～ 教室の中に小さな「わかる喜び」が生まれています! ～

市川市では子どもたちの学力向上を図るため、市独自で少人数学習のための補助教員を採用しています。昨年度までは市全体で10名の採用でしたが、本年度は20名に増員しました。どの学校も自校のカリキュラムに沿って少人数学習を進めており、授業が分かりやすくなったと子どもたちの評判も上々です。



少人数での授業は、発言機会が多くなる

市川小では、算数で少人数指導を実施しています。「一人の発言回数や教員とかかわる時間が多かった。補助教員は、昼休みなど空いた時間を見つけては勉強の分からない子どもたちを集めて熱心に指導しており、特に知識・理解における学力は着実に付いてきている。」との報告をいただいています。

また、英語で少人数指導を実施している妙典中では、補助教員のきめ細かな動きとその効果について「授業中に生じた小さなつまづきを生徒の表情から感じ取り個別に指導するように心がけている。教室の中には小さなわかる喜びがあちこちで生まれている。」と評価しています。

このように児童生徒たちにとって、「勉強を教えてくれるもう一人の先生」の存在は、学力アップだけでなく、満足感や安心感という面でも大きな効果があるようです。教育委員会では、今後も補助教員のより一層の充実を図っていきたく考えています。



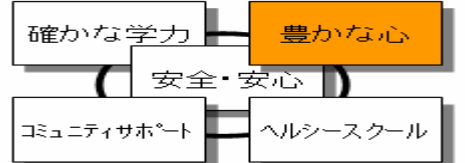
生徒の反応に気を配る少人数担当

[義務教育課]

# これなあに？先生……。干潟の生物学習会！

## ～小中高連携のモデル、環境学習の新しい取り組み～

小中高の連携をはかる具体的な取り組みが始まりました。市川市は、「江戸川における自然と人の共存」をテーマにして、福栄小学校・福栄中学校・国府台高校が研究を進めています。では、その様子を紹介します。



7月12日(水)、江戸川放水路の干潟に子どもたちの声が響きました。当日は、干潟が大きく広がる日。(満月の日は大潮で、昼にはよく潮が引くそうです。)  
 「これなあに？先生……。」  
 「先生、こんなのがありました！」と子どもたちの声が飛び交いました。ひっぱりだことなった「先生」とは、市川自然博物館学芸員の金子謙一さん。「それはね、アナジャコだよ。なかなか獲れないんだけど、すごいなあ。」ほめられた子どもたちは、夢中になって干潟の生物たちを追い続けていました。リーダーの高校生(11名)、サブリーダーの中学生(10名)は、小学生の様子を見守りつつ自分たちも一緒に楽しんでいました。今回の参加者は約80名。リーダーを任された高校生は、生物同好会を中心にした仲間。「事前に調査に来た時と違ってますね。季節が変わると干潟も変わること気づきました。小学生のみんなが珍しい生き物を見つけてきて、初めてアナジャコを見ました。」といきいきと話してくれました。

「体験」を取り入れた「環境教育」に取り組む学校はたくさんありますが、今回は、それらを一歩進めて、小中高が連携することのよさを知る機会となりました。見守る引率の先生方も子どもにも心に帰った、あつという間の1時間。今後の深まりが期待されます。



さて、それでは、江戸川博士金子先生から問題です。題して「干潟の生物クイズ！」です。答えは、第4面に隠れています。探してくださいね。

Q1 干潟でハート型の小さい砂団子を発見！さて製作者は誰でしょう？

- A カニ
- B ヤドカリ

Q2 干潟で両方のハサミをふるのはチゴガニ。「バンザイ」をしているそのわけは？

- A メスが身体をきたえている
- B オスによる求愛ダンス

Q3 干潟に取り残されたクラゲがいました。さてどうなる？

- A ほとんどが水分なので蒸発する。
- B 一時乾くが、また元に戻る

Q4 干潟の木のくいについている貝殻の主は？

- A 赤貝
- B カキ

江戸川の生き物について、画像をみてみたい人は、市川市自然博物館のHP「市川の野生生物電子図鑑」を参照して下さい。アドレスは以下の通り。

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/sizen/zukn/hizukn.htm> [指導課]



## とっておきの体験が心を豊かにする

### ドイツ・ローゼンハイム市への「中学生海外派遣事業」

～ 育ち続ける 宝物 ～

空港到着時の気温35度。予想外の暑さのなかでスタートしました。まず、メートヒエン・リアルシューレ実科学校へ着くと、ホストファミリーがヒマワリの花を生徒たちに1本ずつ手渡ししてくれました。派遣期間中は、ホストファミリーをはじめ多くの方々大変お世話になり、学校へ通い、現地の生徒たちとの生活を体験しました。感謝の気持ちを伝える「日本DAY」では、引率の先生方をはじめ訪問先の学校関係者の方々に協力していただき、「お箸を使った豆つかみ」「白玉だんご」「手巻き寿司」「ミニ夏祭り」等のブースを催し、大好評でした。また、帰国前の「さよならパーティー」では、歌やゲームや踊りなど、事前研修会での練習の成果を思う存分発揮し、大変温かい雰囲気の中で市川市を代表する「小さな親善大使」として活躍しました。



学校での歓迎レセプション

ローゼンハイム市内から眺望する山の向こう側はオーストリア・スイスであり、地続きによる国境越えを実体験する機会にも恵まれて、参加者一人ひとりの国際理解がより深まったものと思います。ミュンヘンに移動してからは、西部にあるヴィッテルスバッハ家が建てた夏の離宮ニュンフェンブルク宮殿、レーゲンスブルク、ダッハウ強制収容所などを見学。レーゲンスブルクは、ドナウ川沿いに位置する通称「奇跡の町」で、バイエルン地方の重要なゴシック様式の大聖堂やドイツ最古の石橋があり、今年7月13日に町全体がユネスコの世界遺産に登録されました。記念すべき年に見学できた生徒たちも、大変興味深くガイドの説明に耳を傾けていました。

帰国後、生徒たちは「もう一度行きたい」「英語をもっと勉強したい」「高校生や大学生になったら留学したい」「自分の意見をしっかり伝えることが大切だ」などと感想を述べていました。過去の派遣生も立派な社会人となり、中学生時代のこの体験を生かして様々な国際交流事業(IIA主催事業・



市長さん(前列中央)を囲んで

市民まつり)に参加し、各分野で「草の根国際交流活動」を続けています。

今回で4年目となるローゼンハイム市への派遣。「小さな親善大使」が持ち帰った宝物を大事に育てていきたいと考えています。 [指導課]

## 初めてづくしの「きらきら体験留学」

～ 大自然の中での6日間～

本年度の「きらきら体験留学」を、7月下旬に沖縄県宮古島市伊良部島において、また、8月上旬に新潟県奥阿賀地域において、それぞれ実施しました。二回の実施とも5泊6日の日程で小学校5年生から中学校3年生までの10名の児童生徒が参加しました。



カヤックビーチでのシュノーケリングとシーカヤック

この事業は、学校に行きづらいなど、何らかの課題を持つ児童生徒、大自然の中で新たな自分を見つきたいという児童生徒を対象に、平成16年度から実施しているものです。



阿賀野川支流でのカジカ捕り

沖縄県伊良部島では、美しい海でのシュノーケリングやシーカヤック、浅瀬での追い込み漁、港での釣りなどの海洋体験と、サトウキビの植付けの農業体験、エイサー、三線などの伝統芸能体験を楽しみました。

一方、新潟県奥阿賀地域では、農家民泊体験を活動の中心とし、参加者は3軒に分かれ、家族同様の生活をする中で、農業体験や林業体験などをしました。また、参加者全員での活動として阿賀野川でのカヌー体験や支流でのカジカ捕りの体験もしました。

沖縄・新潟ともに、参加した子どもたちは、日常の家庭生活ではなかなかできない貴重な体験に目を輝かせ、懸命に取り組みました。地元の方々とのふれあいの中で、温かい心に接したことも大切な思い出となりました。また、大自然の中での様々な体験とおして、自分のよさを存分に発揮し、温かい友情を育み、新たな自分なりの課題を見つけるなど、かけがえのない時間を過ごすことができました。 [指導課]

# 自然の中でおいしい体験

## 下貝塚中ブロックコミュニティクラブ

～ 野外料理教室 ～

## 第六中ブロックコミュニティクラブ

～ はぜ釣り ～

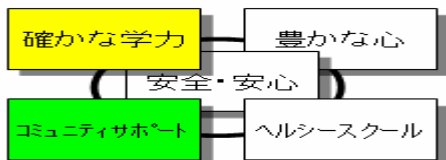


真夏の太陽が照りつける7月8日(土)、柏井キャンプ場で下貝塚中ブロックコミュニティクラブの「野外料理教室」が参加者110名余りで実施されました。今回のメニューはピザ、ちゃんちゃん焼き、フルーツポンチ、そして流しそうめんです。笑顔で包丁を手にする子どもが「初めて包丁を持つ。家では使ったことがないけど楽しい。」とうれしそうなお声。近くで見ている不安な親とのコントラストが微笑ましく見えました。その他、森での遊びとして「ハンモック体験」「チャンバラ」「木登り」などがあり、自然の中での「料理」と「あそび」に子どもたちは大満足の1日でした。



「やったあ、釣れたぞ」「また手長エビだ…」歓喜とため息が入り混じる夏の江戸川河川敷。7月9日(日)、第六中ブロックコミュニティクラブとしては初めての「夏だ! はぜ釣り」が行われました。えさは、ミズとうじ虫。竿と仕掛けは60本用意しましたが、すべて地元のボランティアの方の協力で製作されました。

全体的に釣果(ちょうか)は少なかったのですが、お昼は、釣れたはぜや手長エビを素揚げやから揚げにして、お弁当と一緒にみんなのお腹へ入り、どの子どもも大いに楽しんだ「はぜ釣り」でした。 [地域教育課]



## 実るほど 頭を垂れる 稲穂かな 稲作体験 (稲刈り)



9月17日(日) 台風13号の接近により天候が不安視された中、みんなの願いが通じて見事に晴れた収穫日和のもとで、「市川米っくらぶ」の方々の指導により「稲刈り作業」が行われました。春の田起し作業から一生懸命育てた苗が、黄金色に輝く稲穂となって重く頭(こうべ)をたれ、今か今かと刈られるのを待っています。

西垣教育長の声援や指導者の説明を聞いて、さあ～いよいよ作業開始! 刈った稲を束ねおだにかけて天日干しをします。初めての参加でおっかなびっくり刈る子どもや、刈った稲をうまく束ねられない大人など、大人も子どもも悪戦苦闘。それでも慣れてくると順調に進み、みんなで力を合わせて2時間程で作業は無事終了しました。この後は脱穀・粃摺り・精米の過程を経てできた「米っ人米」でカレーライスを作ったり餅つきをして、収穫を祝う「収穫感謝祭」が待っています。

子どもたちにとって、自然や人とふれあい、勤労と収穫の喜びを感じることが、稲穂以上に実り多い体験となるでしょう。 [地域教育課]

## 子どもたちへの思いと願いがいっぱい くっちゃんべらん会

～ 大野小学校区コミュニティサポート委員会 ～

9月15日(金) 午後7時より大野小学校ランチルームで、「くっちゃんべらん会」が行われました。これは、コミュニティサポート委員会の一環として開催され、学校・家庭・地域がそれぞれの視点で、子どもたちの生活や学習について率直に語り合おうとするもので、学校教職員8名、保護者4名、地域の方々(コミュニティサポート委員等)18名の計30名が参加しました。話し合いのテーマは、参加者の希望により「あいさつ」「豊かな心」「学ぶ意欲」の3点とし、参加者の方々が真剣に熱く語り合ったり、時にはユーモアいっぱいの発言があったりと、なごやかな雰囲気の中での話し合いが進みました。

参加された方からは、「地域の方々が子どもたちのことを真剣に考えてくださっていて、とても心が温かくなりました。(小学校教員)」「地域の方々や先生方と、もっと話がしたいと思いました。子どもたちがたくさんの方々に見守られているのを嬉しく感じました。(保護者)」「それぞれの立場の意見を聞かせていただき有意義でした。自治会としても一層学校に関わりを持ちながら、子どもたちの育成に協力していきたいと再認識しました。(地域の方)」との感想がありました。

また、コミュニティサポート委員長や校長先生からは、「子どもたちをみんなが同じ目線で育てていくという意識が高まった。」「子どもたちの健全育成に向けて人と人との輪が広がった。」とのお話がありました。この「くっちゃんべらん会」の取り組みは、何かを決めるための話し合いでなく、みんなが子どもたちを見つめ、思いや願いを語り合ったものとなり、学校・家庭・地域における「教育の共有化」が、心の面でも大きく図られたものとなりました。 [地域教育課]



## 楽しいアイデア・努力の結晶に感心 市川市児童生徒科学展

9月9・10日(土・日)に現代産業科学館で「市川市児童生徒科学展」が開催されました。市内の小中学生が夏休みにまとめた力作「科学論文」「科学工夫作品」「標本」、612点が展示されました。



今年は、2日間で2,925人の来場者がありました。訪れた人たちは、面白い着想の論文、磁石や空気を使った楽しい科学工作、色や形がきれいに整って完成までの努力が感じられる標本などの力作に感心していました。 [指導課]



## PTA研究大会

### 第50回市川市PTA研究大会を開催

9月9日(土)第50回市川市PTA研究大会が「PTAが今出来る事を考える」をテーマに、市川市生涯学習センター(メディアパーク市川)で開催されました。今回は、時期を8月から9月に移し、分科会も小・中学校別に分けて行われました。

また、話し合いの柱となるべき分科会のテーマを「子どもの安心・安全」について、「家庭の役割」について、「地域との関わり」についてと設定し、6分科会において内容の濃い協議が行われました。おわりに、西垣教育長より今後のPTA活動の活性化に向けたお話がありました。参加者からは、これからのPTA活動に活かそうという意気込みが強く感じられました。 [生涯学習振興課]

### 市川市小・中・養護学校児童生徒音楽会

11月16日(木)・17日(金) 9:10開場 9:20～16:00

市川市文化会館(大ホール)……市内全小・中・養護学校(公立)がそれぞれ合唱・吹奏楽・管弦楽等で参加します。出演児童生徒は4,000名を超えます。両日も、招待演奏(ソプラノ歌手 サイ・イングアンさん)を予定しています。

### 市川市子ども作品展・新聞展

11月16日(木)～19日(日) 9:30～17:00 (最終日は16:45まで)

市川市文化会館(地階)展示室・大会議室……図工・美術科、技術・家庭科、書写、新聞、学校園等の学習成果の発表です。市内の幼稚園、小・中・養護学校からの出品を全て(約2,000点)展示します。 [指導課]

### お知らせ

【小学校】 オープン・スクール・デー 11月～3月 【中学校 養護学校】

Table with columns: 学校名, 公開日, 時間帯, 授 授業公開あり: 内容. Lists various schools and their open school days from November to March.

Table with columns: 第一, 第二, 第三, 第四, 第五, 第六, 第七, 第八, 下貝塚, 高谷, 福栄, 東国分, 大洲, 塩浜, 南行徳, 妙典, 養護. Lists specific events and dates for various schools.

オープン・スクール・デーの詳細につきましては、直接各学校へ問い合わせをお願いします。教育委員会(学校教育部)のHPでも掲載中です。

オープン・スクール・デーに行ってきました!

9/21(木) 二俣小学校

研究主題「ふっくらとした心の持てる子をめざして」のもと、福祉教育の研究を進めている二俣小学校の公開研究会を訪ねてみました。福祉教育の推進指定を受けて3年目。学校目標と研究主題を直結させ、一貫した視点で子どもたちを捉え、様々な角度から検証を試みています。午前中の「1年生」と「さくら学級」との交流の様子を見学させていただきました。



5月に一緒に植えたさつま芋の苗が、9月に収穫され、この日「おいもパーティー」が行われることになりました。みんなで作ったのは、おいもの「ちゃきんしぼり」。お母さんたちの協力のもと上手に作る事ができました。自分たちで作ったものをほおぼる時の笑顔は格別。「おいしい〜!」と声をあげ、まわりの保護者にもお裾分け。中には10個食べた子も。「さくら学級」との交流には、体験が一番!と考えた1年生の先生方のねらいどおり、お互いのふれあいの場が増えて、関わりが深まっている効果があるようです。

「おいもの先生」は、地域在住の小森栄一さん。15年もの間、小学生と関わり続け成長を見守ってこられました。1,000本もの苗を準備して下さり、この活動を支える大きな力になっています。



参加されたお母さんから、「仕事をしているので大変でしたが、子どもたちとふれあうことができて楽しかったです。」との言葉をいただきました。保護者の方々も大満足の時間でした。

地域の幼稚園、小・中・高校の先生方が大勢参観に来られ、とてもにぎやかな中、「ふっくらとした心」という言葉をかみしめながら二俣小をあとにしました。[義務教育課・教育センター]

第2面 「干潟の生物クイズ」の答え : Q1:A Q2:B Q3:A Q4:B

体験学習・散策会のご案内

Table with columns: 考古博物館 TEL: 373-2202, 体験学習「土器を作ろう」(全4回), 自然博物館 TEL: 339-0477, 散策会(市内の自然が豊かな場所を気軽に散策します). Details about museum activities and nature walks.